

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100259		
法人名	有限会社 楽らく		
事業所名	グループホーム 楽らく		
所在地	三重県南牟婁郡紀宝町成川1076-5		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町提出日	平成23年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2473100259&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 23 年 3 月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「普通の暮らしとは何か」ということをグループホーム楽らくの介護の基本において日々の実践につとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、熊野川河口近く、国道42号を少し入ったところの閑静な住宅街の一角にある。事業所は2ユニットで運営され、明るく清潔感のある2階建の建物の1、2階にそれぞれ1ユニット毎分かれている。デイサービスセンターが隣接しており、その利用者との交流もよく行なわれ、ホーム利用者の楽しみの一つとなっている。事業所の前の道は、近くの小学校の子供達の通学路や近所の人達の散歩道で、子供達や近所の人達がよく事業所に立ち寄り、地域に開かれた事業所として親しまれている。職員のチームワークもよく、「心…楽し、気…楽に」の理念のもと、質の高いケアをめざし、志高く取り組みが行なわれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心…楽しく、気…楽に」を基本理念とし、入居者の皆さんと職員が共に楽しみ、閉鎖的にならない、開かれたグループホーム作りに取り組んでいる。	「心…楽しく、気…楽に」の基本理念を玄関に掲示している。毎日のミーティング等で職員に徹底し、日々の実践の中でも常に理念に立ち戻りつつケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の大掃除や氏神様のお祭りに参加すると共に近所の小学校の行事や町主催の行事に可能な限り参加している。また散歩や小学生の通学路になっていて来訪もある。	近くの小学校の運動会、発表会に招待され、保育所の園児がクリスマスに来訪してくれたりしている。ホームは、通学路や地元の人の散歩道にあり、子供達や地域の人達もよく立ち寄ってくれる。地元の祭りや掃除等にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「楽らく」に於いて催される日本舞踊やコーラスグループ等のボランティア活動の発表の場を借りて、地域住民の皆さんにグループホームの説明や認知症への理解や支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の野外活動の支援をお願いし、地区の緊急災害時等の一時的な場所提供の協力を約束している。	役場の担当課長、利用者家族代表、地元町内会会長、地元の協力者等に運営推進会議のメンバーになって貰っている。会議は、2ヶ月に1回開催、主としてホームの入居者や活動の状況報告を行い、意見を出してもらっている。	会議を活かすべく積極的な取り組みが行なわれつつあるところですが、会議委員の研修会開催等推進会議の内容、開催方法に工夫をしながら、事業所運営により一層活用していく取り組みを期待致したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの研修会への参加や介護保険の更新手続きなどで役場に出向き制度面等での指導をして頂いている。	町の担当課長や担当者には、運営推進会議への参加や制度面での指導等をしてもらい、日常的な接触にも心掛け、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に鍵はかけていない。カンファレンス等で取り上げ身体拘束防止の徹底を図っている。	玄関には、鍵は掛けていない。日々のケアの中で職員同士が十分話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束にも注意し、ベッドから転落の危険がある場合に、サイドレールを付けずにコールセンサーで対応したり等のことをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に言動や身体変化に注意し、申し送り時に身体的、心理的、性的虐待や言葉での虐待がないか確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の直接担当している社会福祉協議会職員や司法書士に話を聞く機会がある。また包括支援センター主催の講習会へ参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書内容を家族や代理人に説明し理解して頂いている。改定の際は文章にて了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情申し立て相談窓口を明確にし第三者委員も設置している。家族の面会時に意見を聞く機会を設けている。	意見箱の設置や第三者委員を近所の人にお願している。家族が面会に来た時などに、個別に十分意見を聴くようにしている。事業所の行事を家族に案内し、参加してもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会あるごとに個別面談を行い職員の意見や提案を聞き仕事に反映している。	朝のミーティングやカンファレンス等で意見を出してもらうようにしている。又、総括責任者と管理者が職員一人ひとりと個別面談を行い、意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する取り組みに対し行事参加や研修会等の時間外手当の支給や資格試験の宿泊費の補助を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部での研修に勤務変更や時間外手当などの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(社)三重県地域密着型サービス協議会の書記に籍を置き研修会に参加し意見交換や事例提供をして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族を交えた面接を行い、利用者の不安が少しでも軽減できるように馴染みの家具を持ち込むことや、慣れるまで家族に付き添っていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の利用での不安が少しでも軽減出来るように、面接や面会時に計画作成担当者や主任が立会い、意見や要望を聞く機会をもうけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言葉掛けや、関わりに充分配慮し、他の入居者の皆さんとの仲を取り持つ対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話にも気を付けながら尊敬と感謝の気持ちで、本人の望むことを出来るだけ把握するよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行い、状況に応じて電話連絡や、話し合いの場を設けて問題解決に結び付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に居心地の良い、明るい環境を提供できるように心がけている。	誕生日に、本人の希望・好みに応じ、温泉や喫茶店、川くだりに行く等の支援を行なっている。デイサービスの知り合いの利用者との交流、近くのスーパーへの買物支援をしている。利用者の知人も時々来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の中傷や誤解がトラブルに発展しないように、職員が間に入り事前の対応に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設入居で退去された方にも、お見舞いや面会で様子を見に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で一人ひとり出来る事、出来ない事、思い、希望などを職員で話し合い、本人の立場で考えるようにしている。	夜間、入浴時等利用者と一対一になった時がじっくり話を聞いたり、本音が把握できる機会ともなっている。日常会話の中から、利用者の思いを敏感に感じ取れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人をよく知っている人からの情報を集約し、入居後の新たな情報も追加し生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態を把握し、申し送りやカンファレンスで情報を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で、意識的、無意識的に本人が求めていることを把握し家族や関係者の意見を取り入れて作成している。	介護計画の見直しを6ヶ月に1回行なうと共に、随時の見直しも行なっている。ケアについて家族との十分な話し合いを行ない、職員間で日常的に意見交換しながら介護計画の共有に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を作成し記録している。台帳の閲覧場所を決め、必要な情報を共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の家族の宿泊希望についても柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民に、ホームでの行事や催し物に於いては参加を呼びかけている。又、地域包括支援センター主催の地域資源マップ作成検討会に参加し、地域の一員としての意識を持って支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望による、かかりつけ医の受診支援を行なっている。医療機関ともなじみの関係を築き居宅管理指導で往診していただいている。	かかりつけ医への受診支援を行なっている。家族が対応できないときは、職員で受診支援を行なっている。かかりつけ医の往診をしてもらっている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の健康チェック、往診時の立会いや特変時等の連絡相談が可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	紀南病院の地域連携室と相談や情報交換を常に行ない、病院の医学研究に協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に家族や代理人に方針を説明し理解して頂いている。改定の際は文章にて了解を頂いている。	終末期の看取りを家族の希望で行なっている。入居時に、事業所の方針を本人・家族に説明し、話し合っている。看取りについて、職員との話し合いも充分行い、合意も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の通報マニュアルを作成しており、担架や薬など常備しているが、今後、初期対応の訓練を定期的に行なっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災などいろいろな状況を想定した消火避難訓練を年2回、地域の皆さんも参加して実施している。	消防署の指導も受けながら、年2回の訓練を行なっている。夜間想定訓練も行ない、訓練には近所の協力者にも参加をしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室への出入りは一言掛けて行い、人前であからさまに介護、介助をしない。個人情報記載された記録等は厳重に保管している。	言葉使いに注意し、特に、トイレや入浴、着替えの際には、誇りやプライバシーに充分配慮するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の皆さんの状態や個々の能力に合わせて本人の意思を優先し、選択して頂くように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた生活の流れに合わせている。入居者の生活活動意欲を起す支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望があり定期的に理髪店に出かけている。また、かかりつけの美容師にホームに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と同じ食事をし、食事に時間が掛かっても出来るだけご自身で食べて頂いている。食後片付けや洗い物も利用者が率先してくれる。	食事は、利用者と職員と一緒に食べ、キザミや後片付け等、利用者にも出来ることはしてもらおうようにしている。野外(庭)での食事やバイキング等、食事が楽しくできるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は介護日報に記入し職員で共有し、健康状態を把握している。入居者の状態に合わせて食事の形態を変え、食べやすいように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の皆さんの状態に合わせて、毎食後の歯磨きの習慣を支援しているが、歯磨きの拒否が強い人もあり徹底されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排尿排便間隔や量を把握し、失禁を減らしトイレでの排泄を支援している。	「トイレでの排泄を！」をモットーに取り組んでいる。その人の習慣、パターンを掴み、トイレ誘導を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、自然な排便を目指し水分摂取、食材や調理の工夫、適度な運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に健康状態を観察しシャワー浴など本人の希望を聞いている。入浴を無理強ひせず、拒否したり暴力出る入居者様には家族の協力をお願いしている。	入浴は、いつでも出来るようにしており、その人なりの入浴スタイルを尊重している。入浴の際、暴力が出る等の利用者の場合には、家族の協力を得ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度の運動や日光浴を促し、昼寝も時間を調節し夜間の睡眠に支障の無いように状況にあわせ合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに整理し職員が何時でも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からの情報で家事手伝いや農作業など入居者の皆さんの得意とする分野でのたのしみを支援している。入居者が生けた生花もテーブルに飾られ、明るい雰囲気を出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望者が多く、近くの神社仏閣に出かける機会が多い。梅、桜、藤、コスモス、紅葉など花の見物のドライブが好評である。又、新宮花火大会やイルミネーション見学など好評で季節感を味わっている。	日常的な散歩支援を行なっている。花見、花火見物等四季折々のドライブや野外でのレクレーションを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭出納帳を作りお金を預かっています。買い物時には本人の希望を聞きサイフを渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の投函。家族にパスワードとIDを渡しインターネットカメラを利用した支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに季節の花を飾る事で季節感を取り入れ、食堂とタミの部分を利用し多彩な行事を行っている。	玄関には、雛人形が飾られ、食堂兼居間のテーブルには季節の花が置かれ、畳の空間も設けられている。採光もよく、明るく、清潔感のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	八畳のタミの部分があり、コタツとテレビが置いてあり入居者が同士が思い思いに楽しむ空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やカーテン、照明器具など持ち込み居心地が良い空間作りに配慮している。	馴染みのタンス、椅子、人形等が置かれ、その人らしい居室づくりがされている。各居室の入り口のドアのデザインを、それぞれ変えるという工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアの模様を変えて、入居者の皆様はドアを確認して入室しています。		